

目指す学校像	笑顔いっぱい、みんなに愛される大門小学校へ学び、鍛え、夢を育む～「子ども・保護者・地域の期待に応え、みんなに愛される学校」
--------	---

重点目標	1 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成 2 安全・安心な学校づくりの実現 3 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実 4 自信と誇りをもって、子どもたちと向き合える教師
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	<現状> ○ 全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数ともに全国、市平均と比べ課題の多い結果となっている。 ○ 市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ良好な結果である。 ○ 日頃の学習の様子から、どの教科の授業に対しても意欲的に取り組む児童が多い。 <課題> ○ 全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の思考・判断・表現に課題がある。 ○ 基礎学力向上の積み重ねが可視化できるようにするなど、達成感・成就感をもたせることが課題である。	・教育DXによる学びの自律と個別最適化の充実 ・学びの連続性を生かした「真の学力」の育成	①エヴァンジェリストを活用し、教育のデジタル化(ミライシード・スタディサブリの活用等)を様々な教科・領域で実施する。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、結果を情報端末に入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究が実施できるようにする。低・中学年の教員は自らの目標に向けて授業改善策を実施する。 ④暗唱検定、NIE教育活動、朝や昼の学習時間を活用して、学力向上活動を実施する。	①全教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。 ③学校自己評価に係る教員アンケートで、関連する項目の割合が80%以上となったか。 ④学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートで、関連する項目の割合が80%以上となったか。						
2	<現状> ○ 全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答した児童の割合は、全国、市平均を上回った。 ○ 昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童のけがは発生していない。救急対応を行ったけがは2件であった。 <課題> ○ コロナ禍によるストレス等や生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○ 経験の少ない教職員が多くなってきたので、教職員による施設設備の安全点検を確実に実施する必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全な生活の実現のための施設設備点検の充実	①児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育支援・相談に係る校内委員会として、心の教育推進委員会を設け、適切なタイミングで組織的に支援・相談が実施できるようにする。 ③教職員による施設設備の安全点検を実施し、瑕疵による児童の事故が発生しないようにする。 ④ICTを活用して、校内におけるケガの発生場所、件数、原因などの情報を収集・分析し、再発防止策を講じる。	①学校自己評価に係る教員アンケートで、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートで、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ③施設設備の瑕疵による児童の事故について、今年度も発生することはなかったか。 ④学校評価に係る児童アンケートで、「安全に気をつけて行動することが出来る。」と回答する割合が80%以上となったか。						
3	<現状> ○ 本校は、一昨年度から学校運営協議会によるコミュニティ・スクールが実施されており、目指す児童の姿についての共有を図ることができている。 ○ 本校独自の特色ある実践として地域と共催した「日光御成道チャレンジ強歩」は、早4回目の実施となった。昨年度は、保護者・地域の方133名の参加が実現できた。 <課題> ○ 今年度は、学校運営協議会で共有した目指す児童の姿をさらに熟識し、継続的な取組を実践していく。 ○ チャレンジ強歩については、参加者がそれぞれの立場で主体的に参加・協力し、恒久的な行事となるよう取り組む必要がある。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するための教育活動公開 ・第5回日光御成道チャレンジ強歩の実施	①学校行事等について、ICT等を活用して学校に係る人々が参加・共有できる工夫を行い、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。 ②本校HPでの情報発信頻度を増やして内容を充実し、目指す児童の姿等を広く共有できるようにする。 ③地域・保護者の方と方向性を共有して第5回日光御成道チャレンジ強歩の計画を立てる。 ④地域にとって恒久的な活動となるよう方向性を定め、11月に第5回日光御成道チャレンジ強歩を実施する。	①学校自己評価に係るアンケートで、「学校の教育活動や児童の成長に対する関心が高まった。」と回答する割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「目指す児童の姿を共有できた。」と回答する割合が80%以上となったか。 ③地域・保護者の方と方向性を共有して第5回日光御成道チャレンジ強歩を実施することができたか。 ④第5回日光御成道チャレンジ強歩の事後アンケートを実施し、肯定的な回答が80%以上となったか。						
4	<現状> ○ 毎週水曜日をノー残業デーとして設定した。教職員は業務の優先順位を明確にすることができるようになってきている。 ○ 教職員の特性・特徴を生かした校務分掌組織を編成して新年度をスタートしている。 <課題> ○ 昨年度は毎月の時間外在校等時間が月45時間を超える教職員が数名いた。今年度も同様であれば、面談等とおして、業務改善の指導助言を実施する必要がある。	・自信と誇りをもって子どもたちと向き合える教師の育成	①人事評価に基づいた管理職による授業参観を全教員に実施し、指導力を向上させる研修を実施する。 ②年間を通して毎週木曜日を研修日として設定し、学校課題研修を中心に教職員研修を実施する。また、夏季休業中の研修日を4日間実施する。 ③時間外在校等時間が月45時間以上の職員との面談等とおして、業務改善の指導助言を毎月実施する。	①全教員が人事評価に基づいた目標に向けて指導力を向上させる研修を実施することができたか。 ②全教員が研究主題の実現を目指して学校課題研修に取り組み、研究を深めることができたか。 ③全教職員が業務改善の視点をもって、日常的に業務に取り組むことができたか。						